

令和7年度

「運営に関する計画」
最終評価

大阪市立阪南中学校

令和8年 3月

大阪市立阪南中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

・全国学力・学習状況調査結果(全国平均比)

R1	国語	+2.2P	数学	+8.2P	英語	+8.0P	
R3	国語	+4.4P	数学	+6.8P			
R4	国語	+4P	数学	+8.6P			
R5	国語	+6.2P	数学	+4P	英語	+8.4P	
R6	国語	+4.9P	数学	+7.5P			* R2 実施中止

・「学校の授業はわかりやすい」に肯定的な回答をする生徒の割合

R1 89.0% R2 89.0% R3 94.0% R4 89.0% R5 81.6% R6 86.6%

※ R4まで「学校アンケート(生徒)」、R5より「全国学力学習状況調査」の平均

・1日当たりの学習時間

H29 2時間以上 54.8% 30分以下 15.5%

H30～ アンケート項目なし

R3 2時間以上 53.1% 30分以下 9.1%

R4 2時間以上 49.6% 30分以下 13.1%

R5 2時間以上 51.1% 30分以下 15.3%

R6 2時間以上 53.2% 30分以下 11.7%

課題のある生徒はあるものの、家庭学習の習慣は概ね定着している。

今後も、数学科における論理的思考能力や国語科における読解力・現力等の向上を図るなど、習熟度レベルの上位層のさらなる伸長を旨とするとともに、下位層の底上げを図っていくことが必要である。

・「学校の規則を守っていますか」に肯定的な回答をする生徒の割合

R1 98.4% R2 96.1% R3 97.0% R4 98% R5 97% R6 98%

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に肯定的な回答をする生徒の割合

R1 93.9% R2 95.0% R3 96.0% R4 96% R5 97% R6 96%

「自分にはよいところがありますか」に肯定的な回答をする生徒の割合

R1 77.2% R2 77.3% R3 81.0% R4 80% R5 88% R6 85%

「将来の夢や目標を持っていますか」に肯定的な回答をする生徒の割合

R1 71.6% R2 76.0% R3 75.0% R4 73% R5 80% R6 78%

・不登校生徒の在籍比 R1 4.3% R2 6.5% R3 8.1% R4 6.9% R5 7.4% R6 5.29%

子どもサポートネットを定期に実施、SCやSSW等と連携し不登校生を減らす取組を推進できている。

・全国体力・運動能力、運動習慣等調査 体力合計点の結果(全国平均比)

男子 R1 39.26 (-2.43) R3 42.08 (+0.90) R4 39.37 (-1.67)

R5 44.56 (+3.24) R6 43.89 (+2.03)

女子 R1 48.74 (-2.43) R3 48.99 (+0.40) R4 45.59 (-1.83)

R5 44.98 (+2.24) R6 50.02 (+2.65) * R2 実施中止

中期目標

【安全・安心な教育環境の実現】

○令和7年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を100%にする。

R5 97% R6 97% R7 98%

○令和7年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を毎年前年度より減少させる。

R1 在籍752人 不登校生徒32人 不登校生徒率4.3%

R2 在籍734人 不登校生徒48人 不登校生徒率6.5%

R3 在籍715人 不登校生徒58人 不登校生徒率8.1%

R4 在籍783人 不登校生徒54人 不登校生徒率6.9%

R5 在籍809人 不登校生徒59人 不登校生徒率7.4%

R6 在籍850人 不登校生徒45人 不登校生徒率5.29%

R7 在籍835人 不登校生徒53人 不登校生徒率6.34% (12月末現在)

○令和7年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。 R4 91% R5 96% R6 94% R7 90%

○令和7年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を83%以上にする。 R4 80% R5 88% R6 85% R7 85%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を96%以上にする。 R4 87% R5 96% R6 93% R7 90%

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における平均正答率を、すべてにおいて全国平均との差を+5.0pt以上にする。 R5 国+6.2pt 数+4pt 英+8.4pt R6 国+4.9pt 数+7.5pt R7 国+4.7pt 数+10.7pt

○令和7年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、令和3年度より向上させる。

R3 国 111.6 社 122.9 数 120.2 理 110.7 英 123.1 R7 国 111.7 社 116.3 数 116.8 理 120.0 英 124.8

○令和7年度の大阪市英語力調査におけるC E F R A 1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を60%以上にする。 R5 63% R6 70.3% R7 80.0%

○令和7年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を80%以上にする。

R4 73% R5 79% R6 82% R7 84%

○規則正しい生活を身につけている生徒(全国学力・学習状況調査の①「朝食を毎日食べていますか」②「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」③「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合)を90%以上にする

R5 ①90.5% ②74.9% ③87.9% R6 ①93.1% ②84.3% ③93.4% R7 ①90.9% ②77.1% ③93.1%

【学びを支える教育環境の充実】

○ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間中は1日以上設定する。 R7 ゆとり週1回 夏季4日 冬季4日

○令和7年度末の校内調査における「読書に親しんでいますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%にする。 R4 70% R5 87% R6 64% R7 59.3%

○令和7年度末の校内調査における「学校は保護者からの悩みや相談に誠実に対応してくれますか」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を95%以上にする。

R4 93% R5 86% R6 90% R7 92.1%

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育環境の実現】

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を100%にする。 R5 97% R6 97% R7 98%

○年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 R6 5.2%

○年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 R6 58.9%

○年度末の校内調査において、不登校生徒の割合を5%以下にする。

R1	在籍752人	不登校生徒32人	不登校生徒率4.3%
R2	在籍734人	不登校生徒48人	不登校生徒率6.5%
R3	在籍715人	不登校生徒58人	不登校生徒率8.1%
R4	在籍783人	不登校生徒54人	不登校生徒率6.9%
R5	在籍809人	不登校生徒 59人	不登校生徒率7.4%
R6	在籍850人	不登校生徒 45人	不登校生徒率 5.29%
R7	在籍835人	不登校生徒 53人	不登校生徒率 6.34% (12月末現在)

○年度末の校内調査における「学校生活は楽しくて充実していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を96%以上にする。

R4 91% R5 96% R6 94% R7 93%

○年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を88%以上にする。

R4 80% R5 88% R6 85% R7 85%

○感染症のウイルスにより、学級閉鎖・学校休業などの集団感染（クラスター）源とならないように日頃からの安全衛生面で意識の高い学校づくりを強く推進する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を96%以上にする。

R4 87% R5 96% R6 93% R7 90%

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における平均正答率を、すべてにおいて全国平均との差を+5.0pt以上にする。R5 国+6.2pt 数+4pt 英+8.4pt R6 国+4.9pt 数+7.5pt R7 国+4.7pt 数+10.7pt

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。

77期生（現3年生） R7 国語 8.2pt 数学 9.5pt 【3年次】 (-0.5pt, -0.7pt)

77期生（現3年生） R6 国語 8.7pt 数学 10.2pt 【2年次】 (-0.3pt, -0.5pt)

77期生（現3年生） R5 国語 9.1pt 数学 10.7pt 【1年次】

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を63%以上にする。

R5 63% R6 70.3% R7 80.0%

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を80%以上にする。

R5 79% R6 82% R7 84%

○規則正しい生活を身につけている生徒（全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を90%以上にする。

R5 ①90.5% ②74.9% ③87.9% R6 ①93.1% ②84.3% ③93.4% R7 ①90.9% ②77.1% ③93.1%

○全国体力・運動能力調査における体力合計点を昨年度より向上させる。

R4 男子39.37 女子45.59 R5 男子44.56 女子44.98 R6 男子 43.89 女子 50.02

R7 男子42.78 女子50.10

○中学生の時期は精神面・体力面で著しい成長期でもあるので、P B Sを強く推進し、精神面はもちろん、体力面でも積極的肯定的支援をしていく。

○年度末の校内調査における「健康について自己管理ができています」に対する肯定的な回答の割合を94%以上にする。

R4 89% R5 93% R6 83% R6 87% R7 87%

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%にする。(ただし、事務局が定める学校行事ICT活用が適さない日数を除く) R7 10.6%

○1日1回全生徒が心の天気を入力し、学習者用端末を活用するようにする。 R6 49.1% R7 63.7%

○第2期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教職員の勤務時間の上限に関する基準2「1年間の時間外勤務時間が720時間を超えない(60h/月)」「1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を1年間に6月まで」「1か月の時間外勤務時間が100時間を超えない」「連続する複数月(2か月、3か月、4か月、5か月、6か月)のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の1か月当たりの平均が80時間を超えない」を満たす教職員の割合を20%以上にする。 R7 63%

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。 R6 91.4% R7 94.4%

○ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間中は1日以上設定する。 R7 ゆとり週1回 夏季4日 冬季4日

○年度末の校内調査における「読書に親しんでいますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を87%以上にする。

R4 70% R5 87% R6 64% R7 59%

○年度末の校内調査における「学校は保護者からの悩みや相談に誠実に対応してくれますか」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を95%以上にする。

R4 93% R5 86% R6 90% R7 92%

○心の天気、相談機能などを活用することで、生徒の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめや不登校などの未然防止や早期発見など迅速な対応を行う。

大阪市立阪南中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況																																	
<p>【安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を100%にする。 R7 98%</p> <p>○年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を毎年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の割合を5%以下にする。</p> <table border="0"> <tr> <td>R1 在籍752人</td> <td>不登校生徒32人</td> <td>不登校生徒率4.3%</td> </tr> <tr> <td>R2 在籍734人</td> <td>不登校生徒48人</td> <td>不登校生徒率6.5%</td> </tr> <tr> <td>R3 在籍715人</td> <td>不登校生徒58人</td> <td>不登校生徒率8.1%</td> </tr> <tr> <td>R4 在籍783人</td> <td>不登校生徒54人</td> <td>不登校生徒率6.9%</td> </tr> <tr> <td>R5 在籍809人</td> <td>不登校生徒 59人</td> <td>不登校生徒率7.4%</td> </tr> <tr> <td>R6 在籍850人</td> <td>不登校生徒 45人</td> <td>不登校生徒率 5.29%</td> </tr> <tr> <td>R7 在籍835人</td> <td>不登校生徒 53人</td> <td>不登校生徒率 6.34% (12月末現在)</td> </tr> </table> <p>○年度末の校内調査における「学校生活は楽しくて充実していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を96%以上にする。</p> <table border="0"> <tr> <td>R4 91%</td> <td>R5 96%</td> <td>R6 94%</td> <td>R7 93%</td> </tr> </table> <p>○年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を88%以上にする。</p> <table border="0"> <tr> <td>R4 80%</td> <td>R5 88%</td> <td>R6 85%</td> <td>R7 85%</td> </tr> </table> <p>○保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」の項目について肯定的な回答をする保護者の割合を96%以上にする。</p> <table border="0"> <tr> <td>R4 95%</td> <td>R5 93%</td> <td>R6 91%</td> <td>R7 93%</td> </tr> </table>	R1 在籍752人	不登校生徒32人	不登校生徒率4.3%	R2 在籍734人	不登校生徒48人	不登校生徒率6.5%	R3 在籍715人	不登校生徒58人	不登校生徒率8.1%	R4 在籍783人	不登校生徒54人	不登校生徒率6.9%	R5 在籍809人	不登校生徒 59人	不登校生徒率7.4%	R6 在籍850人	不登校生徒 45人	不登校生徒率 5.29%	R7 在籍835人	不登校生徒 53人	不登校生徒率 6.34% (12月末現在)	R4 91%	R5 96%	R6 94%	R7 93%	R4 80%	R5 88%	R6 85%	R7 85%	R4 95%	R5 93%	R6 91%	R7 93%	C
R1 在籍752人	不登校生徒32人	不登校生徒率4.3%																																
R2 在籍734人	不登校生徒48人	不登校生徒率6.5%																																
R3 在籍715人	不登校生徒58人	不登校生徒率8.1%																																
R4 在籍783人	不登校生徒54人	不登校生徒率6.9%																																
R5 在籍809人	不登校生徒 59人	不登校生徒率7.4%																																
R6 在籍850人	不登校生徒 45人	不登校生徒率 5.29%																																
R7 在籍835人	不登校生徒 53人	不登校生徒率 6.34% (12月末現在)																																
R4 91%	R5 96%	R6 94%	R7 93%																															
R4 80%	R5 88%	R6 85%	R7 85%																															
R4 95%	R5 93%	R6 91%	R7 93%																															

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を見る指標	達成状況
<p>取組内容1【施策1 安全・安心な教育環境の実現】 [生活指導部] 生徒に寄り添う指導を行い生徒理解に努め、家庭との連携・協力を進める。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半期に1回、教育相談週間を設ける。 ・学期に1回、「いじめアンケート」を実施する。 ・生活指導代表者会議を週に1回実施し、情報の共有を図る。 	B
<p>取組内容2【施策1 安全・安心な教育環境の実現】 [生活指導部] 不登校や虐待に関する生徒の状況を的確に把握し、SC・SSW等と連携し、個々の生徒に応じた適切な支援を行う。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもサポートネットとの連携を築き有効なシステムにする。 ・スクリーニング会議にてきめ細かい情報交換を進める。 ・生徒理解・教育支援シートを100%活用する。 ・月1回不登校対策委員会を開催し、情報の共有を図る。 ・生徒の家庭での様子を把握するために保護者アンケートを年1回実施する。 	B
<p>取組内容3【施策1 安全・安心な教育環境の実現】 [健康教育部] 教職員・生徒が一体となって衛生管理に努め、アレルギー対応や特に感染症流行期に適切な対応をとれるよう準備する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりや学校HPを通じて感染症流行時期前には学校と家庭の双方で特に日々の消毒や手洗い等の衛生管理を徹底する。 ・教職員全員でアレルギー対応について全員が少なくとも1度は実技研修を受けるように校内実践し、万一の際にも冷静に適切な対応がとれる組織を作る。 ・調理従事者と連携し、給食調理・衛生管理を徹底し、異物混入事案を0にする。 	B
<p>取組内容4【施策2 豊かな心の育成】 [道徳教育推進委員会] [生活指導部] 道徳の時間を要として、教育活動全体で道徳教育を推進するとともに、生徒の心を育てる取り組みを進めるために、教員の指導力の向上を図り、教員研修を2回は実施し、指導方法の工夫・改善に取り組む。PBSの推進をする。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に1回、「振り返りシート」を用いて、生徒の様子を把握する。 ・道徳の授業研究を伴う校内研修を年に2回以上行う。 ・人権教育に関する取組を年間3回以上、実施する。 ・生徒の意識調査として授業アンケートを年2回実施する。 	C

(達成状況)
取組内容 1
<p>○指標 1 については、1学期と2学期である4月と8・9月に、時間割の調整を行い、担任と生徒での個人懇談の時間を放課後に設けている。</p> <p>○指標 2 については、各学期の終盤にタブレット端末によるいじめアンケートを行い、生徒の意見を集約し、該当項目にチェックがあった生徒に対しては個別で聞き取りを行い、早期発見・早期対応をしているをしている。</p> <p>○指標 3 については、週1回の生活指導連絡会に加え、主任会でも綿密な情報交換を行っている。さらに週1回養護教諭、生徒指導主事にSCさんを加えたメンバーでの情報共有を行い、それぞれに連携している。また、令和6年度途中からSSWの方に参加してもらい情報や方針の共有をできたことは大変有意義で、複数の生徒や家庭の改善や外部機関との連携に大きく役立っている。</p>
取組内容 2
<p>○指標 1 については、生活指導連絡会にSSWを加えることで、子どもサポートネットとの連携だけでなく、自立アシストへの連携も向上している。</p> <p>○指標 2 については、スクリーニング会議として、生活指導連絡会、主任会、SC情報交換も行っており、スクリーニング会議 2 へもスムーズに連携できている。</p> <p>○指標 3 については、主に特別支援学級在籍生徒に関して実施している。その他の生徒に対しても、引き続き児童生徒ボードを含めて100%実施を目指して進めていく。職員研修において「いいとこみつけ」の「配慮事項」の</p> <p>○指標 4 については、毎週の生活指導連絡会を不登校対策委員会と位置づけ、欠席数の多い生徒をリストアップし、情報共有をはかっている。</p> <p>○指標 5 については、12月に実施。</p>
取組内容 3
<p>○指標 1 については、毎月1回の保健だよりや日々の教室換気、手洗い・うがい・アルコール消毒の声掛け等の取組を通じて、現在まで感染症拡大を抑止できた。今後も感染症予防を目的とした啓発活動を継続する。</p> <p>○指標 2 については、4月に教職員全員対象の「食物アレルギー検討会議」および実技研修会を実施し、教職員間でアレルギー対応への共通理解を深め、日々の給食対応では適切な個別対応を行っている。</p> <p>○指標 3 については、調理従事者と連携を行い、給食調理・衛生管理マニュアルに沿った調理業務を実施している。給食実施上の問題点については、給食関係教職員で共有し、解決してきた結果、安全安心でおいしい給食提供をすすめている。</p>
取組内容 4
<p>○指標 1 については、以前は毎週末の終学活でプリントを配布していたが、現在はタブレット端末で実施している。さらに多くの担任は、その項目の中の「友達の良かったことを書こう」の欄で出てきた内容を学級通信で紹介するなどしており、生徒たちだけでなく、保護者の安心や信頼に大きくつながっていると思われる。また、指導の際の「情報の出どころを伏せてほしい」の件の対応にも、「振り返りシートにあった情報」といくらかでも有益に使用できるので、必ずすべてのクラスで継続したい。「いじめ」に発展する前の「いやがらせ」の段階でキャッチできることも多い。</p> <p>○指標 2 については、校内研修を実施することができなかった。</p> <p>○指標 3 については、第1学年では2学期に「インターネットによるいじめ」「自己理解 自己肯定感の育成」「性教育（男女交際、LGBTQ）」、さらに「パラスポーツ体験型出前授業」を3学期に実施予定。第2学年では、1学期に「性教育」を2時間、2学期に「多文化共生」を3時間実施。3学期に「違いを認め合う学習」を実施。第3学年でも、1学期に「性教育」を実施、3学期に「平和学習」を実施予定。</p>

次年度への改善点

取組内容 1

- 指標 1については、1学期と2学期のスタートである4月と8・9月に、時間割の調整を行い、担任と生徒での個人懇談の時間を放課後に設ける。
- 指標 2については、各学期の終盤にタブレット端末によるいじめアンケートを行い、生徒の意見を集約し、該当項目にチェックがあった生徒に対しては個別で聞き取りを行い、早期発見・早期対応をできるようにする。
- 指標 3については、週1回の生活指導連絡会に加え、主任会でも綿密な情報交換を行う。さらに週1回養護教諭、生徒指導主事にSCを加えたメンバーでの情報共有を行い、それぞれに連携している。昨年度途中からSSWに参加してもらい情報や方針の共有をできたことは大変有意義だったので、次年度も引き続き実施予定である。

取組内容 2

- 指標 1については、生活指導連絡会にSSWが加わったことで、子どもサポートネットとの連携だけでなく、自立アシストへの連携も向上していた。次年度も引き続き実施予定である。
- 指標 2については、スクリーニング会議として、生活指導連絡会、主任会、SC情報交換も行っているので、スクリーニング会議2へもスムーズに連携できた。つながる、つながらないに関わらず「子サポ連絡票」を作成し、スクリーニング会議2にかけておくことが、その後のテンポアップにつながるので、可能な範囲で準備を行う。
- 指標 3については、主に特別支援学級在籍生徒に関して実施している。その他の生徒に対しても、引き続き100%実施を目指して進めていく。特に、「事案が生じた際に入力する」ということを職員全員が意識し、情報を蓄えていくことを第一歩として進めていく。職員研修において「いいとこみつけ」の「配慮事項」のタグ付けをすることで、情報の蓄積と共有ができることの体験実習をすることはできたが、「定着」に向けて継続が必要と考えられる。
- 指標 4については、月初めの生活指導連絡会を、不登校対策委員会と位置づけ、前月までの欠席数の多い生徒をリストアップし、情報共有をはかった。また、生活指導支援員の方の家庭訪問も大変有効で、複数の生徒に改善が見られたので、次年度も引き続き進めていく。
- 指標 5については、全体的に肯定的意見が多くを占めた。引き続き、生徒の家庭での様子を把握するために次年度も保護者アンケートを年1回実施する。

取組内容 3

- 指標 1については、毎月1回の保健だよりや日々の教室内換気、手洗い・うがい・アルコール消毒の声掛け等の取組を通じて、現在まで感染症拡大を抑止できた。今後も感染症予防を目的とした啓発活動を継続する。
- 指標 2については、4月に教職員全員対象の「食物アレルギー検討会議」および実技研修会を実施し、教職員間でアレルギー対応への共通理解を深め、日々の給食対応では適切な個別対応を行うことができた。
- 指標 3については、調理従事者と連携を行い、給食調理・衛生管理マニュアルに沿った調理業務を実施している。給食実施上の問題点については、給食関係教職員で共有し、校内ルールなどを見直すなどの手立てをとった結果、安全安心でおいしい給食提供ができた。

取組内容 4

- 指標 1については、「振り返りシート」から得られた情報をどのように有益に使っているかなどの実績の共有等ができることさらにいい方向に進むと考えられる。
- 指標 2については、今年度は日程が合わず、校内研修を行うことができなかった。次年度以降は長期休暇中(夏季休暇など)を利用して、研修の実施に努めていきたい。
- 指標 3については、各学年での対応となっているため、学校全体としてのパッケージの確立が今後の課題である。ジャンルとして平和学習、性教育、福祉学習は安定して実施できているが、差別問題(障がい者、在日外国人、被差別部落など)に関する内容については検討が必要である。次年度以降、行事との兼ね合いや他学年との体育館利用の重なりなどの解消も課題である。
- 指標 4については、生徒の意識調査として授業アンケートを実施していく。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を96%以上にする。 R4 87% R5 96% R6 93% R7 90%</p> <p>○令和7年度の全国学力・学習状況調査における平均正答率を、すべてにおいて全国平均との差を+5.0pt以上にする。 R5 国+6.2pt 数+4pt 英+8.4pt R6 国+4.9pt 数+7.5pt R7 国+4.7pt 数+10.7pt</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。 77期生（現3年生） R7 国語 8.2pt 数学 9.5pt 【3年次】 (-0.5pt, -0.7pt) 77期生（現3年生） R6 国語 8.7pt 数学 10.2pt 【2年次】 (-0.3pt, -0.5pt) 77期生（現3年生） R5 国語 9.1pt 数学 10.7pt 【1年次】</p> <p>○年度大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を63%以上にする。 R5 63% R6 70.3% R7 80.0%</p> <p>○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を80%以上にする。 R5 79% R6 82% R7 84%</p> <p>○規則正しい生活を身につけている生徒（全国学力・学習状況調査の①「朝食を毎日食べていますか」②「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」③「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を90%以上にする。 R5 ①90.5% ②74.9% ③87.9% R6 ①93.1% ②84.3% ③93.4% R7 ①90.9% ②77.1% ③93.1%</p> <p>○全国体力・運動能力調査における体力合計点を昨年度より向上させる。 R4 男子39.37 女子45.59 R5 男子44.56 女子44.98 R6 男子 43.89 女子50.02 R7 男子42.78 女子50.10</p> <p>○中学生の時期は精神面・体力面で著しい成長期でもあるので、部活動の活動停止期間がもたらすマイナス面が大きいととらえて、P B Sを強く推進し、精神面はもちろん、体力面でも保健体育の授業を複数教員で対応し積極的肯定的支援をしていく。</p> <p>○年度末の校内調査における「健康について自己管理ができています」に対する肯定的な回答の割合を94%以上にする。 R4 89% R5 93% R6 83% R7 87%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を見る指標	達成 状況
<p>取組内容1【施策4 誰一人取り残さない学力向上の取組】 [教務]</p> <p>行事・時間割を精選し授業時数の確保を図る。その上で生徒保護者の学習面での不安やストレスを解消する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生は可能な限り今年度中に履修範囲を補う。 ・3年生については進路指導の観点から常に新しい情報を学校HPや通信を活用して生徒・保護者に的確に提供して不安を払しょくする。アンケートで「学校は生徒や保護者に学年に応じた適切な進路情報を提供している」の肯定的割合を90%以上にする。 <p>R4 84% R5 93% R6 86% R7 88%</p>	C
<p>取組内容2【施策4 誰一人取り残さない学力向上の取組】 [教務][管理職]</p> <p>各教科において生徒にわかりやすい授業をさらに研究・実践し、さらなる学力向上を目ざす。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の生徒アンケートにおいて「学校の授業はわかりやすい」・「先生は教え方をいろいろ工夫している」に対する肯定的な回答を97%以上にする。 <p>R4 90.5% R5 93% R6 93.5% R7 93.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の保護者アンケート「子どもは、学習内容を理解している」の項目について肯定的な回答をする保護者の割合を78%以上にする。 <p>R4 76% R5 70% R6 76% R7 72%</p>	C
<p>取組内容3【施策5 健やかな体の育成】 [体育科]</p> <p>生徒自らが課題を発見し思考しながら判断し表現できるようにする。また、継続して運動が行えるようにする</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の生徒アンケートにおいて「運動やスポーツをすることは好きですか」に対する肯定的な回答を85%以上にする。 <p>R5 79% R6 82% R7 84%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の生徒アンケートにおいて「進んで運動をし、体力づくりをしている」に対する肯定的な回答を85%以上にする。 <p>R4 73% R5 79% R6 82% R7 84%</p>	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

(達成状況)

取組内容 1

○指標 1 については、3年生のチャレンジテストも問題なく終えて、時数としても余分にある状況である。12年生も各教科とも年間指導計画通りに終わることができる予定である。

○指標 2 については、5月に進路説明会を開き昨年度までの実績の公開と、10月に進路指導委員会を実施し、今年度の進路決定にかかわる情報の提供を行っている。また、学年内で随時、奨学金の案内や、学級活動での進路指導を行うことで積極的に情報を発信できている。

取組内容 2

○指標 1 については、各教科各学年に「授業に興味もてる」「授業内容がよくわかる」「家庭学習によく取り組んでいる」「主体的に話し合う時間がある」「授業を通して考えが深まったり広がった」という内容の授業アンケートをおこなった。集計後、教員へフィードバックをおこない、授業改善に役立てる。

○指標 2 については、生徒の成績の記録を、テストごとに保護者にもサインをもらってくるように指導することで、成績を保護者へ開示できるようにしている。また、学期ごとの通知表、キャリアパスポートを通じて学習内容を保護者へ開示している。

取組内容 3

○指標 1 については、保健体育の授業でスモールステップを意識した課題設定を行い、1単元につき全員が1度は達成感を得られる場を設け、楽しいと思える瞬間をつくれるようにしている。

○指標 2 については、保健体育の授業で運動と健康の関係を伝えながら運動に親しむ態度を育てている。

次年度への改善点

取組内容 1

○指標 1 については、現状を維持すべく教科と連携をはかっていく。

○指標 2 については、発信そのものは行っているため継続して行い、推移をみて対策をしていきたい。

取組内容 2

○指標 1 については、ICTの活用、言語能力の育成を意識した構成、総合的読解力の育成の観点を取り入れた授業と、工夫をしているので継続して推移をみて対策をしていきたい。

○指標 2 については、保護者が子どもの理解力をはかる指標として学力テストが主になるが、学力テストそのものが全員が100点を取るようなものではなく、「学習内容を理解している」という文脈の取り方が保護者それぞれに違うことが結果に影響しているように思われる。現在行っている開示について継続して行い、授業改善も意識していきたい。

取組内容 3

○指標 1 については、よりスモールステップを意識した課題設定を行いアンケートで高い数値につなげる。

○指標 2 については、保健の授業や体育理論でも体を動かすことやスポーツの良さを伝えていく。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%にする。（ただし、事務局が定める学校行事ICT活用が適さない日数を除く） R7 10.6%</p> <p>○1日1回全生徒が心の天気を入力し、学習者用端末を活用するようにする。 R6 49.1% R7 63.7%</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教職員の勤務時間の上限に関する基準2「1年間の時間外勤務時間が720時間を超えない(60h/月)」「1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を1年間に6月まで」「1か月の時間外勤務時間が100時間を超えない」「連続する複数月(2か月、3か月、4か月、5か月、6か月)のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の1か月当たりの平均が80時間を超えない」を満たす教職員の割合を20%以上にする。 R7 63%</p> <p>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。 R7 94.5%</p> <p>○ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間中は1日以上設定する。R7 ゆとり週1回 夏季4日 冬季4日</p> <p>○年度末の校内調査における「読書に親しんでいますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。 R4 70% R5 87% R6 64% R7 59.3%</p> <p>○年度末の校内調査における「学校は保護者からの悩みや相談に誠実に対応してくれますか」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を95%以上にする。 R4 93% R5 86% R6 90% R7 92.1%</p> <p>○心の天気、相談機能などを活用することで、生徒の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめや不登校などの未然防止や早期発見など迅速な対応を行う。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を見る指標	達成 状況
<p>取組内容1【施策6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の取組】 [教務] [ICT教育推進委員会] 一人一台端末の環境を生かし、デジタルドリルや協働学習支援ツールを活用し子どもの可能性を引き出す学びの実現に向け取り組む</p> <p>指標 ・いいとこ見つけ、心の天気、相談機能などを活用し、毎日学習者用端末を活用する</p>	A
<p>取組内容2【施策7 人材の確保・育成としなやかな組織づくりの取組】 [管理職] 教職員の働き方改革により、時間外勤務時間を減らす。</p> <p>指標 ・教員の一人当たり平均時間外勤務時間を40時間以内にする。 R4 45時間12分 R5 42時間21分 R6 39時間47分 R7 40時間32分 ・1か月の時間外勤務時間が100時間を超えないようにする。 ・部活動に関しては、大阪市部活指針にのっとり、週当たり2日以上以上の休養日を設け、時間外勤務時間を減らす。</p>	B
<p>取組内容3【施策8 生涯学習の支援の取組】 [教務] 図書館司書、元気アップコーディネーターと協力し学校図書館の活性化をはかり、子どもたちが主体的に、より身近に本に親しむ習慣を身につけさせる。</p> <p>指標 ・学期中は、行事等がない限り図書館の開館を週3回は行う。 ・朝の読書週間日を年間2週間以上行う。</p>	A
<p>取組内容4【施策9 家庭・地域等と連携・協働した教育の取組】 [生活指導部] [管理職] 保護者との連絡を丁寧に行う。また、学校の情報公開を積極的に行い、防災訓練や薬物乱用防止教室など、地域の方が学校の諸活動にも積極的に参加できるようにする。</p> <p>指標 ・年度末の校内調査における「学校は保護者からの悩みや相談に誠実に対応してくれますか」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を95%以上にする。R4 93% R5 86% R6 90% R7 92% ・ホームページの活用により、保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」の項目について肯定的な回答をする保護者の割合を96%以上にする。 R4 95% R5 93% R6 91% R7 93%</p>	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

(達成状況)

取組内容 1

○指標 1 については、学習に加え、いいところ見つけ、心の天気、相談機能などで毎日学習者用端末を活用している。心の天気の入力状況について、毎日入力できているクラスもある。今後も教職員の共通理解のうえ、管理職の声掛けだけでなく、組織的な取り組みを進めていく。また、教職員はMicrosoft TeamsやGoogleClassroomなどのオンラインプラットフォームの活用、オンライン教材やアプリケーションソフトウェアを利用を進め、生徒の学習幅が拡大させている。さらに、今年度、全学年の別室生徒向けの授業配信や学習者用端末の持ち帰りも開始しつつある。

取組内容 2

○指標の教職員の時間外勤務時間について、8月末までの一人あたりの平均累計時間は、40時間11分(昨年度 40時間02分)と、ほぼ指標は達成しているが、昨年度よりわずかに増加している。しかし、今年度は毎週水曜日を「ゆとりの日」とし、部活動は17:30に終了させ顧問教員の早期退勤を進め週1回の設定ができています。中期目標である「年次有給休暇の10日以上取得の教職員の割合を90%以上」は、見込みで71%(9月末)で改善が必要である。引き続き、年次有給休暇取得の促進を図り、教職員のワーク・ライフ・バランスの推進に資するよう取り組む。

取組内容 3

○指標 1 については、行事等の日を除き、昼休みの開館を週5日、放課後の開館を週 2 日行っている。図書室利用者数の推移が、5月385人、6月562人、9月564人と活性化されている。本のリクエストカードを記入する生徒も増えている。
○指標 2 については、朝の読書週間を 1 回、2 週間設けた。また、まとめとして各学年で読書の樹を作成し、文化発表会の作品として展示することができた。

取組内容 4

○指標については、生活指導通信「さわやか」を随時発行して部活動の様子を発信したり、学校ホームページや通信アプリ「ミマモルメ」で学校行事の連絡や時間の詳細等発信して、保護者や地域との連携を図っている。とくに、今年度は、毎月の行事予定表や行事の保護者案内も「ミマモルメ」で添付しているため、半年で27件の「ミマモルメ」のメール機能を活用した。今後も保護者からの悩みや相談に誠実に対応するため、生徒の心の天気や相談機能等も活用し、生徒の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめや不登校などの未然防止や早期発見など迅速な対応を行う。

次年度への改善点

取組内容 1

○指標 1 については、毎日使うことを目標としているが、ハード面での故障は鉛筆やシャープペンシルの故障とは違い、自分で修理できないばかりか、複数用意しておくこともできないため、そういった環境に応じた利用方法を模索していくことが必要である。

機器トラブル対応について、学校内で発生するICT機器やネットワークのトラブルに迅速かつ適切に対応するためのガイドラインを作成し、教職員に対応フローを共有することで生徒への影響を最小限に抑える。

取組内容 2

○指標 1 については、指標の教職員の時間外勤務時間40時間32分とほぼ達成している。しかし、指標 2 の1か月時間外勤務時間100時間を超えた教員もいた。次年度においても、ゆとりの日の設定、部活動でも大阪市部活動指針の週当たり 2 日以上の休養日を設け、時間外勤務時間を減らしていく。また、全部活動の部活動指導員を検討していく等、新たな取組の検討も進めていく。

取組内容 3

○指標 1 については、十分に啓蒙し利用もされている。昼休みの時間が短く、利用者が増えていかない。

○指標 2 については、目標通りに実施できているのでこれを維持していく。

取組内容 4

○指標 1 については、個別の事案 1 つ 1 つに慎重でいていねいな対応だけでなく、個々の生徒や保護者に寄り添う姿勢も学校全体で進めていく。また、学校における生徒や保護者のニーズや満足度を把握し、教育活動の改善に向けた取り組みを、教職員の共通理解のうえ進めていく。

○指標 2 については、来年度も引き続き、学校ホームページやミマモルメでの配布文書添付等で学校行事の連絡や時間の詳細等を発信して、保護者や地域との連携を図っていく。